

第5学年 社会科学学習指導案

指導者 竹内 義晃

I 単元名 食料生産を支える人々 ―さぐろう 安全でおいしい日本の米づくり―

II 単元の指導構想

1 学習指導要領に示されている指導目標及び内容

○目標

- (2) 我が国の産業の様子、産業と国民生活との関連について理解できるようにし、我が国の産業の発展や社会の情報化の進展に関心をもつようにする。

○内容

- (2) 我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考えるようにする。
- ア 様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること。
- イ 我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特色など
- ウ 食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸などの働き

2 教材について

本単元「食料生産を支える人々」は、本小単元と「さぐろう 水産業のひみつ」、「考えよう これからの食料生産」の小単元から構成されている。

オリエンテーションでは、自分たちが食べている給食の食材を取り上げ、産地マップ作りを行うことを通して、日本中で食料生産が行われていることに気付かせるとともに、実際にどのようにして作られているのか分からないという子どもたちの素直な思いから、食料生産について追究していこうとする意欲を高めたい。

最初に扱う稲作農業では、米づくりが盛んな新潟県を取り上げる。誰もがほぼ毎日口にする「米」は、子どもたち一人一人にとって身近な教材である。そのため、子どもたちは、生産されるまでの過程や工夫、努力、米の生産量や従事している人々の減少などについて、切実感をもって学習を進めることができるようになる。米づくりの様子を追究していくことを通して、農家の人たちは、地域の自然条件を生かしながら、さまざまな工夫や努力をしておいしく安心な米をつくり、これからも米づくりを続けていこうとしていることをとらえさせたい。

3 子どもについて

前単元「自然条件と人々の暮らし」の学習では、気候や地形に特色のある地域では、その自然条件に合わせて、人々が暮らしや産業の中でさまざまな工夫や努力をしており、国土の自然環境は人々の生活や産業と深くかかわっていることをとらえてきている。

子どもたちは、設定した学習問題について既習や経験をもとに予想を立てたり、必要な資料を見つけて調べたりすることができる。また、調べたことを、友達の発表と関連させて話すことができるようになってきている。

しかし、調べたことから自分の考えを構築することを苦手としている子どもも多く、ふり返りの記述で分かったことは書いても、「そこから考えたこと」の部分では、内容に乏しさを感じる。

また、市街地に住む子どもたちにとって、農業はなじみの薄いものである。自分たちが食べている米が、どのようにして作られ、米づくりにはどのような大変さがあるのかなどということ意識している子どもは少ない。

このことから、第一次産業に携わる人々の思いや願い、苦勞に触れることで、自分たちの食生活について見つめ直すきっかけとしたい。さらに、社会的事象について多面的にとらえたり考えたりできるようにしていきたい。

4 復興教育（3つの教育的価値）との関連

- (1) 生命や心について【生きる】 「②自然との共存」とのかかわり

人間は、社会生活を営む上で国土の地形や気候など自然環境と大きくかかわりながら生活していることをとらえると同時に、自然からの恩恵を受けることで社会生活を維持することができることに気づき、自然とともに生きることの大切さを感じる。

- (2) 人や地域について【かかわる】 「⑨仲間や地域の人々とのつながり」とのかかわり

自分たちが普段食べている米が、米づくりに従事している人々の工夫や努力により生産されていることに気付くと同時に、米づくりに携わる人々が協力しながら米づくりを行っていることを知り、生産者同士がかかわり合いながら我が国の食料生産を支えていることに気付く。

Ⅲ 単元の指導計画

1 目標

我が国の米づくりについて、食料生産に携わる人々が生産を高めるために工夫や努力をしていることや、自然環境を生かしていること、運輸の働きなどを写真や地図、グラフなどの資料を活用して調べ、我が国の米づくりの現状と課題をとらえるとともに、国民生活を支えている農業の重要性や発展について考え、それらを適切に表現することができる。

2 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用 の 技能	社会的事象についての 知識・理解
① 我が国の米づくりの様子に関心をもち、その様子や課題について意欲的に調べている。 ② 我が国の食料を支えている稲作農業に従事している人々の思いや願いを知り、米づくりのよさや大切さについて意欲的に考えようとしている。	③ 我が国の米づくりについて、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 ④ 我が国の食料を支えている稲作農業が、自然環境とそれらに従事する人々の工夫や努力を生かしながら営まれていることをもとに、これからの我が国の米づくりについて考え、適切に表現している。	⑤ 写真や地図、グラフなどの資料を活用しながら、我が国の米づくり農家の工夫や抱えている課題などについて必要な情報を集め、読み取っている。 ⑥ 我が国の食料生産や米づくりについて調べたことを、白地図やノートなどにまとめている。	⑦ 様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあることを理解している。 ⑧ 稲作農業に従事している人々の工夫や努力を理解している。 ⑨ 我が国の稲作農業は諸問題を抱えながらも、国民の食料を確保するために思いや願いをもって行われていることや自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを理解している。

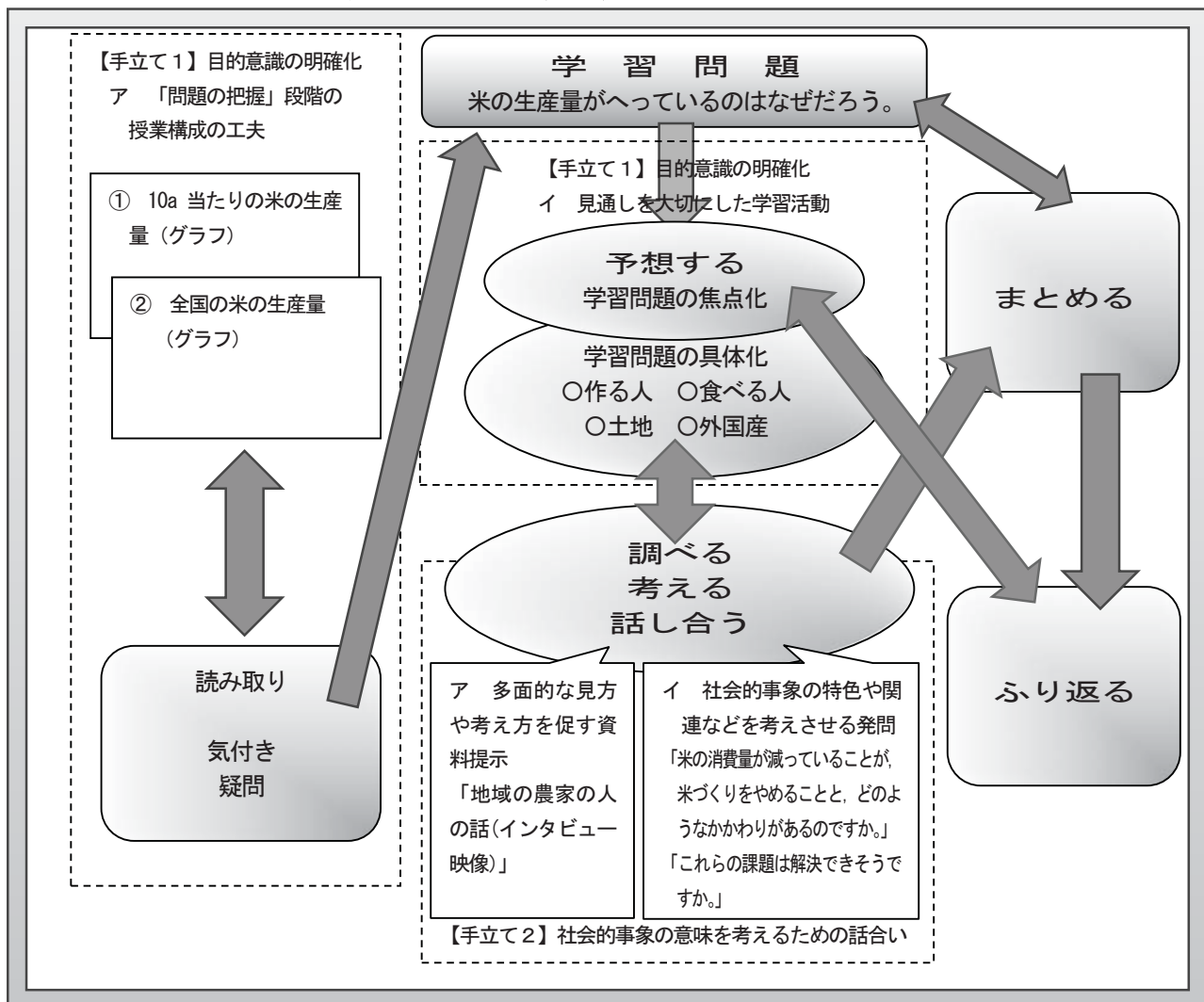
3 指導計画 (全14時間)

過程	時	おもな学習活動	「目的意識の明確化」(○)と「事象の意味を考える話し合い」(◇)のポイント	指導上の留意点と評価
オリエンテーション	2	① 学校給食の献立調べとして、給食がさまざまな食材 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">わたしたちが食べているものは、どこで、どのように作られているのだろう。</div> から作られていることをつかむ。 ② 産地マップを作る。 ③ 食べ物の産地や生産の様子について、疑問点を話し合う。	○ 給食の献立調べから、たくさんの食材が使われていることをつかみ、それらがどこで作られたものなのか、子どもの予想と比較しながら問題意識を高める。	・ たくさんの食材の中から、最もよく食べられている米について注目させ、活動への見通しをもつことができるようにする。 【評価⑦】
問題の把握	3	① 田植え体験を通して、実際の米づくりの様子について知る。 ② 米袋を観察しながら、書かれてある内容について話し合う。 ③ 都道府県別の米の生産量を調べ、東北・北陸・北海道で生産量が多いことをとらえるとともに、南魚沼産のコシヒカリの特徴について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">日本の米づくりは、どのように行われているのだろう。</div> ④ 稲作について、どのようなことを、どんな方法で調べるか学習計画を立てる。	○ 米のルーツは東南アジアにあることを伝え、日本の中で生産量が多い地域と比較させることで、自然環境の違いに注目させ、問題意識を高める。 ○ 田植え体験を通して、米づくりに対するイメージをもたせたり、南魚沼産のコシヒカリを提示したりすることで、子どもたちの自然な疑問を引き出し、それを学習計画づくりに生かす。	・ 田植え体験から米づくりに対する興味を高め、疑問に思ったことを積極的に発表させることで、米づくりを追究していきたいという気持ちをもつことができるようにする。 【評価①③】

問 題 の 追 究	1	<p>① 南魚沼市の航空写真をもとに、南魚沼市がどのようなところなのかを話し合う。</p> <p>② 南魚沼市の農業生産額で米が多いことから、南魚沼市で米づくりがさかんなわけについて追究する学習問題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">南魚沼市で米づくりがさかんなのはなぜだろう。</div> <p>③ 地図やグラフを読み取り、南魚沼市の土地や気候の特色について調べる。</p> <p>④ 南魚沼市で米づくりがさかんなわけをまとめる。</p>	<p>○ 南魚沼市の農業生産額の内訳を示し、米が多いことから問題意識を高める。</p> <p>◇ 米づくりに適した条件や盛岡市の雨温図を提示することで、南魚沼市では米づくりに適した気候を生かして産業が営まれていることをとらえることができるようにする。</p>	<p>・ 土地や気候の条件が米づくりに適していることをまとめることができるようにする。 【評価⑨】</p>
	1	<p>① 田植え体験を想起し、その後の稲の成長について関</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">米づくり農家では、どのようにして米を育てているのだろう。</div> <p>心を高める。</p> <p>② 「米づくりカレンダー」を見て、稲の成長の様子と米づくりの1年の仕事について調べ、ノートにまとめる。</p>	<p>○ 体験活動を想起させることで、自分たちの疑問点を明らかにしていこうとする気持ちを高める。</p>	<p>・ 「米づくりカレンダー」から、米づくりに必要な仕事についてとらえることができるようにする。 【評価⑥】</p>
	1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">米づくり農家の人々は、どのようなことに気を付けて米づくりをしているのだろう。</div> <p>① 米づくり農家の一日のスケジュール表を読み取る。</p> <p>② 米づくり農家が気を付けていることをまとめ、安全や環境に配慮した米づくりの工夫や努力について考える。</p>	<p>○ 農作業の写真から、一日の仕事について関心を高める。</p> <p>◇ なぜこのような手間をかけているかを問うことで、より安全な米をつくらうとしていることに気付くことができるようにする。</p>	<p>・ 米づくりの一日の仕事の様子について調べ、安全や環境に配慮した米づくりの工夫や努力に気付くことができるようにする。 【評価⑧】</p>
	3	<p>① グラフから10a当たりの米の生産量の変化と、作業時間の変化を読み取る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">なぜ時間をかけずに多くの米を収穫できるようになったのだろう。</div> <p>② 時間をかけずに多くの米を収穫できるようになった理由を予想し、話し合う。</p> <p>③ 生産を高める米づくりの工夫や努力について、テーマを決めて調べる。</p> <p>④ 調べたことを発表し合い、短い労働時間で多くの収穫を得るために行われてきた稲作農家の工夫や努力についてまとめる。</p>	<p>○ 10a当たりの米の生産量が増えていること、作業時間が短くなっていることを読み取ることで、追究の視点を明確にさせる。</p> <p>○ 米づくりの様子を想起させることで、米の生産量が増えてきた理由について、根拠を明らかにして予想できるようにする。</p> <p>◇ 機械化の短所を問うことで、費用面の負担の大きさに着目させ、米づくりの大変さに気付くことができるようにする。</p> <p>◇ 農薬や化学肥料が、生産を高める工夫に入らないかを問うことで、効率のよさと安全面との関連について考えることができるようにする。</p>	<p>・ 1aの広さを説明すると共に、縦軸や横軸が表しているものを確かめるなど、グラフの見方をおさえるようにする。 【評価⑤】</p> <p>・ 話し合いを通して、生産性や安全性、品質を高めるための米づくりの工夫や努力についてとらえることができるようにする。 【評価⑧】</p>
	1	<p>① 米の生産量のグラフを読み取り、米の生産量が減っている理由について追究する学習問題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">米の生産量がへっているのはなぜだろう。</div> <p>② 各資料から米の生産量が減ってきている理由について調べ、我が国の稲作の現状についてとらえる。</p>	<p>○ 10aあたりの米の生産量が増えているのに、我が国全体の米の生産量が減っていることから、問題意識を高める。</p> <p>◇ 米の生産量が減ってきている直接的な理由と背景的な理由の関連について話し合うことで、課題を解決することの難しさを実感することができるようにする。</p>	<p>・ 一つ一つのグラフを読み取りながら、その変化と米の生産量の減少との関連について考えることができるようにする。 【評価④】</p>
本 時				

	1	<p>① VTRを視聴し、農家の人がこれからも米づくりを</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>これからも米づくりを続けていくために、農家の人たちはどのような取り組みを行っているのだろう。</p> </div> <p>続けていくために努力していることに気付く。</p> <p>② さまざまな課題を克服するために、稲作農家が取り組んでいることを調べる。</p> <p>③ それぞれの取組に込められた稲作農家の人たちの思いについて考え、話し合う。</p>	<p>○ 前時を想起させ、難しい課題を抱えている米づくり農家の現状を確認するとともに、実際の農家の人の米づくりに対する思いを聞くことで、問題意識を高める。</p> <p>◇ 米づくりを続けていくための取り組みは、だれのための取り組みかを問うことで、課題を解決するためには消費者の意識や協力による面もあることを考えることができるようにする。</p>	<p>・ 課題を解決するための取り組みを調べることを通して、米づくり農家の人たちの工夫や努力、思いについてとらえることができるようにする。 【評価②】</p>
ま と め	1	<p>① 三重県の丸山千枚田の棚田の写真を見て、気付いた</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>今もなお、棚田が残っているのはなぜだろう。</p> </div> <p>ことを話し合う。</p> <p>② 棚田を残す運動が進められている理由を調べる。</p> <p>③ 調べたことをもとに、棚田を残す理由を話し合うことを通して、水田が地域に果たす役割をとらえる。</p> <p>④ 米づくり農家の人の話やこれまでの学習から、米づくり農家の思いや願いについて考える。</p>	<p>○ 効率のよさを求めて田んぼの形を整えてきたことを想起させてから棚田の写真を見せることで、問題意識を高める。</p> <p>◇ 消費者の自分たちは何ができるかと問うことで、米づくり農家の思いや願いと自分たちの生活に関連させて、これからの米づくりについて考えることができるようにする。</p>	<p>・ 水田が地域に果たす役割をとらえるとともに、単元を通して学習してきたことをもとに、自分の生活とかわらせながら、米づくり農家の思いや願いをまとめることができるようにする。 【評価④】</p>

IV 本時の指導構想 (は指導過程, は子どもの思考を表す)



V 本時の指導計画

1 目標

米の生産量が減ってきている理由を追究することを通して、米の生産量の減少と、米の消費量の減少や農業従事者の減少、国産と外国産の価格競争といった我が国の米づくり農家の抱える課題との関連について考えることができる。 【思考・判断・表現】

2 評価規準

評価の観点	評価方法と評価規準	期待する記述例	努力を要する児童への手立て
思考・判断・表現	発言内容やノートの記述内容から、「米の生産量の減少と、我が国の米づくり農家の抱える課題との関連について考えているか」を評価する。 【評価④】	米の生産量がへってきたのは、米の消費量がへったり、安い外国産の米が入ってきたりすることで、米があまり売れなくなり、米づくりをやめる水田があとを絶たないからだ。	板書をもとに、我が国の米づくりの課題を、再度ふり返らせる。

3 展開

段階	学習活動と内容	時間	研究にかかわる手立て (○) 指導上の留意点と評価 (◇)	資料
問題の把握	1 米の生産量のグラフを読み取り、米の生産量が減っていることをとらえ、学習問題を設定する。	5分	【目的意識の明確化】 〈「問題の把握」段階の授業構成の工夫〉 ○ 前時までに扱った10a当たりのグラフを提示してから我が国の米の生産量のグラフを提示することで、米の生産量が減っていることへの意外性を感じさせ、問題意識を醸成する。	・グラフ「10a 当たりの米の生産量」 ・グラフ「我が国の米の生産量」
	米の生産量がへってきているのはなぜだろう。			
問題の追究	2 米の生産量が減った理由について予想し、発表する。 (1) 予想をノートに書く。 (2) 予想を発表し合う。 【予想される内容】 ・田んぼが減ってきている。 ・米を食べなくなってきた。 ・外国産の米が入ってきている。 ・米づくり農家が減ってきている。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 根拠を明らかにしながら予想を発表できるようにする。 ・ 机間指導により、子どもたちの予想を把握し、後の予想の整理に役立てる。 ・ 予想が難しい子には、前時までの学習を想起させるなど、助言を与える。 【目的意識の明確化】 〈「見通し」を大切にした学習活動〉 ○ 子どもたちの予想を、生産者、消費者、土地、外国とのかかわりに分類することで、追究の方向性を確認する。	
	3 教科書や資料集から、米の生産量が減った理由について調べる。 (1) 教科書を使って調べる。 (2) 資料集から調べる。	8分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 追究の方向性に沿って調べさせる。 ・ グラフを写すのではなく、グラフから読み取ったことを短い文章で表現するようにさせる。 	

	<p>4 調べたことを出し合い、米の生産量が減ってきた直接的な理由を明らかにすることで、その背景にある日本の米づくりの課題をとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・米づくりをやめた水田が増えている。 (直接的要因) ・消費量が減っている。(背景的要因) ・農業で働く若い人の数が減っている。 (背景的要因) ・安い外国産の米が入ってきている。 (背景的要因) 	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・調べてわかったことを、根拠とした資料を示しながら発表させる。 ・一つのグラフからどんなことが読み取れるか、話し合いの中で明らかにしていく。 ・生産量が減ってきている理由を直接的な要因と背景的な要因に整理しながら明らかにし、背景的な要因が日本の米づくり農家の抱える課題であることを確認する。 <p>【社会的事象の意味を考えるための話し合い】 〈社会的事象の特色や関連をとらえさせるための発問〉</p> <p>○ 「米の消費量が減ってきているということが、米づくりをやめることと、どのようなかわりがあるのですか。」というような発問を取り入れながら、子どもたちの思考の流れに沿って、直接的要因と間接的要因との関連について考えさせる。</p> <p>◇ 【思考・判断・表現④】 (発言) 【社会的事象の意味を考えるための話し合い】 〈社会的事象の特色や関連をとらえさせるための発問〉</p> <p>○ 「これらの課題は解決できそうですか。」という発問をきっかけに、間接的要因同士も関連し合っていることに気付かせ、農家の努力だけでは解決が難しいことをとらえさせる。</p> <p>【社会的事象の意味を考えるための話し合い】 〈多面的な見方や考え方を促す資料提示〉</p> <p>○ 実際の農家の人のインタビュー映像を視聴させることにより、様々な課題が収入減と密接に関係していることをとらえさせ、米づくりと農家の人たちの生活を結び付けて、日本の米づくり農家が抱える課題の深刻さについて考えさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフ「米の消費量の変化」 ・グラフ「米づくりをやめた水田と新たに始めた水田の面積の変化」 ・グラフ「農業で働く人の数の変化」 ・グラフ「国産の米の5kg当たりの値段」 ・写真「日本の店で売られている中国産の米」
	<p>5 日本の米づくり農家が抱える課題の難しさについて考え、話し合う。</p>	10分	<p>6 本時の学習をふり返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・映像「地域の農家の人の話」
ま と め		7分	<ul style="list-style-type: none"> ・学習問題についてわかったことを、再構成して表現させる。 ・自分の考えが変わったり高まったりしたこと、考えたことや感じたこと、自分の生活とのかかわりや次の学習についてという視点からも選択して記述させる。 <p>◇ 【思考・判断・表現④】 (ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な課題を抱えながらも、米づくりを続けていこうとする農家の人たちについて触れ、次時の見通しをもたせる。 	